

評価の結果、評価に係る宮城県行政評価委員会の意見及び県の対応方針
 政策整理番号 4 誰もが暮らしやすいバリアフリー・ユニバーサルデザイン環境の整備

政策体系		県民満足度		評価原案				
政策番号	政策名	満足度(政策)		政策評価シート(A)				
		重視度	満足度	政策評価シート(A)	政策評価シート(A)の内容			
					満足度(施策)	政策評価シート(B)		
優先度(順位)	優先度(%)	施策の必要性	政策評価シート(B)の内容			政策評価シート(C)の内容		
			施策・事業展開シート(C)					
1-1-4	誰もが暮らしやすいバリアフリー・ユニバーサルデザイン環境の整備	重視度	70	満足度	55	政策評価シート(A)	適切	【施策群設定:適切】本政策の実現のためには5施策全てが引き続き必要である。「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」の趣旨を踏まえ、バリアフリー社会の実現に向け支援が必要である。 【政策評価指標群:適切】政策評価指標「外出時に不自由を感じている障害者・高齢者の割合」は、高齢者や障害を持つ県民に直接アンケート調査しており、県民の満足度を知る上で有効な評価手段であり、適切な政策評価指標と判断する。また、必要性を「大」とした施策全てに指標が設定されており適切である。 【施策群の有効性:おおむね有効】政策全体の政策評価指標達成状況から「有効」、政策満足度結果から「おおむね有効」、社会経済情勢の点からは「おおむね有効」と判定した。 【総括】上記3点を総合的に検証した結果「適切」と判断する。
		1	バリアフリー・ユニバーサルデザインの意識啓発	外出時に不自由を感じている障害者・高齢者の割合	A	4位	6.9%	大
						施策評価シート(B)	おおむね適切	
						施策事業展開シート(C)	拡大	【評価結果から抽出される課題と対応策】 バリアフリー社会を一層推進していくためには、施設整備などのハード的なバリアフリー化とともに、バリアフリーに関する県民意識の高揚、心のバリアフリー化を進めることが重要である。バリアフリーみやぎ推進事業は、このうち県民のバリアフリーに対する理解や意識の浸透を図るものである。施策満足度のかい離は15点と大きい。このことから、これまでの小学校児童及び一般県民を中心とした普及・啓発に加え、新たに中学生以上の学生や民間事業者等も対象とした事業についても施策を展開していく必要がある。 【施策・事業の方向性】 高齢化社会の進展、要介護高齢者等の増加に伴い、バリアフリー社会の推進は一層重要となっており、バリアフリーの普及・啓発についての事業対象者を拡大し、効果的・効率的に事業を実施する。 バリアフリー・ユニバーサルデザインの普及・啓発はバリアフリー社会を実現する上での基本であることから、これまでの小学生への「福祉のまちづくり読本」の配布による福祉教育、一般県民へのパンフレットやホームページ等による啓発に加え、中学・高校・大学生への福祉教育や福祉活動実施の際の協働化(民間と県)などにより、より効果的な事業の推進手法について検討する。

評価の結果、評価に係る宮城県行政評価委員会の意見及び県の対応方針
 政策整理番号 4 誰もが暮らしやすいバリアフリー・ユニバーサルデザイン環境の整備

行政評価委員会政策評価部会の意見	県の対応方針	評価結果
政策評価	政策評価	政策評価
施策評価	施策評価	施策評価
-		
-		

評価の結果、評価に係る宮城県行政評価委員会の意見及び県の対応方針
 政策整理番号 4 誰もが暮らしやすいバリアフリー・ユニバーサルデザイン環境の整備

政策体系		県民満足度		評価原案									
政策番号	政策名	満足度(政策)		政策評価シート(A)									
		重視度	満足度	政策評価シート(A)		政策評価シート(A)の内容							
分野	基本方向	政策	実施番号	施策名	政策評価指標名	指標値達成度	満足度(施策)	施策の必要性	政策評価シート(B)	政策評価シート(B)の内容			
									優先度(順位)	優先度(%)	政策評価シート(C)	政策評価シート(C)の内容	
1-1-4 (続き)			2	誰もが利用しやすい施設や道路等の整備	外出時に不自由を感じている障害者・高齢者の割合	A	1位	66.0%	大	<p>【民間・事業者群設定:適切】本施策において県は、だれもが住みよい福祉のまちづくり条例により、本県全体の指針や基準を制定し、条例の施行・実施について市町村や民間施設に対して主導的役割を担っており、鉄道駅舎等のバリアフリー化に関しては、補助制度により民間誘導を行っている。事業者群は、鉄道駅舎等のバリアフリー化を促進するもの、条例に適合した建築物を増やすもの、普及啓発、船舶のバリアフリー化など施策目的を踏まえた構成となっており適切である。</p> <p>【事業者群の有効性:おおむね有効】施策満足度は過去3回50点であり効果が見えないものの、政策評価指標「外出時に不自由を感じている障害者・高齢者の割合」は目標値を達成しており事業の効果が出ている。また、介護保険制度による宮城県内の住宅改修費申請件数の推移(前施策で説明)は継続して拡大傾向にありバリアフリーに関する県民意識の高揚の一端であると考えられ有効と言える。</p> <p>【事業者群の効率性:おおむね効率的】施策満足度の推移からは効率的とは言えないが、政策評価指標達成状況からは効率的と判定できる。また、事業業績が一部前年から下回っているものがある反面、介護保険制度による宮城県内の住宅改修費申請件数の推移やバリアフリーみやぎ推進事業の適合証の交付件数に関する効率性(前年比4.2倍)から効率的に事業が実施されていると判定する。</p> <p>【総括】上記3点を総合的に検証した結果「おおむね適切」と判断する。</p>			
											<p>【評価結果から抽出される課題と対応策】 施策満足度は50点と低調であり、かい離も30点と高いことから、この課題解決のため施設や道路等のバリアフリー化をより一層進める必要がある。</p> <p>【施策・事業の方向性】 高齢化社会の進展、要介護高齢者等の増加に伴い、バリアフリー社会の推進は一層重要となっていることから、鉄道駅舎へのエレベーター設置を引き続き促進するほか、新たに離島航路におけるバリアフリー化された船舶の導入や建築士等事業者に対する啓発等が必要である。</p> <p>鉄道駅舎等については、引き続きバリアフリー化を促進する。特に離島住民の高齢化が進展していることから、離島航路を運行する船舶のバリアフリー化を促進する。 県有施設以外の施設のバリアフリー化を促進するため、建築士等事業者への啓発や支援策のあり方について検討する。</p>		
							3	誰もが利用しやすい情報の提供		2位	13.0%	中	
							4	誰もが使いやすい製品づくり		5位	4.2%	中	
							5	バリアフリー等を進める専門家、NPO、ボランティアの育成		3位	9.3%	中	

評価の結果、評価に係る宮城県行政評価委員会の意見及び県の対応方針
 政策整理番号 4 誰もが暮らしやすいバリアフリー・ユニバーサルデザイン環境の整備

行政評価委員会政策評価部会の意見	県の対応方針	評価結果
政策評価	政策評価	政策評価
施策評価	施策評価	施策評価
-		
-		
-		
-		